

DE LA SALLE UNIVERSITY
DON ENRIQUE T. YUCHENGO HALL

De La Salle University

Spring Law Course 2013

2013 年度 明治大学法学部

デ・ラ・サール大学春期法学研修

報告書

もくじ	1
1. 教員あいさつ	2
2. Introduction to De La Salle Spring Law Course	3
3. About De La Salle University	4
4. Schedule	5
5. The Life of Manila	7
6. デ・ラ・サール大学の学生からのメッセージ	9
7. Lectures	11
8. 参加者からのメッセージ	12
9. 現地の生活に必要な持ちもの	13
10. 2013 年度研修概要	14



タガイタイから見たタール湖とタール火山

1. 教員あいさつ

◆世界へはばたこう！

法学部長 間 宮 勇

明治大学法学部では、英語で法律の仕事ができる人材を育成するために、外国法の知識および専門的かつ実践的な英語運用能力を修得する目的で、海外法学研修を実施しています。2010年度から実施しているケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジ夏期法学研修に続く2番目の海外法学研修プログラムとして、フィリピンのデ・ラ・サール大学法学部と提携して、2014年3月にデ・ラ・サール大学春期法学研修を実施しました。

この研修では、デ・ラ・サール大学法学部の教員や弁護士から直接フィリピンの法律や司法制度を英語で学びます。さらに現地の法律家は日本法への関心が高いことから、学生が日本法について授業中に英語で説明を求められることもありました。つまり授業を通じて、フィリピン法を学びつつ、日本法の理解を深め、英語で説明する能力を向上させる機会をもつことになるのです。

研修の一環として実施される国会議事堂、裁判所、法律事務所などへのフィールドトリップでは、フィリピンの政治と法の現場を身近に実感することができ、さらに、フィリピン独立運動の記念館やスラム街の見学を通して、フィリピンの歴史と文化と社会をより深く知る機会になったものと確信しています。

この報告書から刺激を受けて、今後も多くの学生が海外法学研修に参加し、その経験を通して、外国法と異文化への理解を深めるとともに、世界で活躍できる人材に育ててゆくことを期待しています。

◆A milestone

Teruhisa Komuro

Associate Dean (External), Meiji University School of Law

In March 2014 Meiji University School of law held an inaugural two-week short law course in collaboration with De La Salle University College of Law in Manila, the Philippines. The five law students were very warmly welcomed by DLSU law faculty and students, and were able to grasp a spirit of Philippine law and to taste its culture through interactive lectures and stimulating fieldtrips. This was also an opportunity for them to consider their own law and society from a different point of view, in addition to obtain cross-cultural way of thinking. Many of the participants' experience and impression are lively described in this brochure.

For both Meiji and DLSU, 'internationalization' is one of the key ideas of legal education. Mutual understandings of lawyers from different countries will be more important in a globalized society. We would like to extend and enhance opportunities for both Meiji and DLSU students to study law in the other state and to respect for each other. This program, I believe, must be the first step and milestone of closer relationship with Meiji and DLSU.

2. Introduction to De La Salle Spring Law Course

私たちは2014年3月2日から16日までの約2週間、2013年度デ・ラ・サール大学春期法学研修に参加しました。この研修はDe La Salle University College of Lawによる明治大学法学部生のためのオリジナルプログラムで、法学部の新規短期海外留学プログラムとして今年度から開始されました。ケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジ夏期法学研修と同様の「英語で法律を学ぶプログラム」ですが、研修期間が短期であるため、海外留学に不安を持っている人や外国へ初めて行く人でも気軽に参加できます。マニラとの時差は-1時間で、成田空港からおよそ4時間で行くことができます。

授業は、Introduction to Philippine Law and Legal Professionとして授業が展開されます。展開・先端法の知識がない1年生や2年生にも、分かりやすい身近な問題から扱ってもらえるので安心です。授業は通訳がつかないので英語力が身につきます。授業だけでなく、現地の人々とお喋り、ファストフード店でのオーダー、ホテルのルームサービスについてのフロントからの電話など、あらゆる場面で日常会話を鍛えることができます。

遊びの面では、デ・ラ・サール大学の現役学生と友達になりました。授業後の自由時間に一緒に食事へ出かけて恋愛話をしたり、休日にショッピングやビーチへ行ったりして、本当に仲良くなれました。SNSで今でも連絡を取り合っていて近況を報告し合っています。フィリピンの人々はとても気さくで優しい性格です。約2週間公私ともに私たちの面倒をみてくれて、困っているときは何度も助けてくれました。治安については、校外を出歩くときはデ・ラ・サール大学の担当者や学生が同行してくれるため心配ありません。フィリピン特有の貧富の差を実感し、日本がどんなに恵まれているのかを考えさせられた機会もありました。



フィリピンは、以前スペインとアメリカ合衆国に統治されていた時期があるため、世界遺産のサン・オーガスティン教会など、今でも当時の文化が残っている所があります。

現地の物価も安く、500mlのミネラルウォーターが約40円で売られています。

実際に参加した私たちが2013年度デ・ラ・サール大学春期法学研修についてこれから紹介しますので、この報告書を是非参考にしてください。

3. About De La Salle University

デ・ラ・サール大学は1911年にキリスト教系の学校としてマニラに設立されました。国立フィリピン大学、私立のアテネオ・デ・マニラ大学に並んで、フィリピンを代表する3大学のひとつとなっています。裕福な大学なので、設備に関して日本の大学に引けを取りません。さらに入り口にいるガードマンがIDを厳しくチェックしているので、学内での危険や不安はほとんどありません。実際、私たちの留学生用のIDカードでさえ疑われたくらいです。



スポーツも盛んで、特に女子バレーボールとアーチェリーが人気です。バレーボールの大事な試合前ということで練習にも熱が入っていました。試合当日は、デ・ラ・サール大学のカラーであるグリーンのTシャツを着た多くの学生達が、テレビの前で熱く応援していました。また、アーチェリーは昔から親しまれていて、アーチェリー部員のことを“Green Archers”と呼ぶそうです。

キャンパス内には緑があふれ、キャンパス外の喧騒を忘れてしまうほどとても過ごしやすい環境です。中庭は、語り合ったり、ふざけあったりする学生たちの憩いの場となっています。私たちもここで、楽しい時間を過ごし、癒されていました。



4. Schedule

現地での日程は、前日に決定されることが多いため、前日の解散時に、担当者に時間・場所をよく確認する必要があります。

平日は講義とフィールドトリップが同じ程度の割合で組まれています。休日は担当者が企画した遠足、または現地学生とショッピングなどの自由行動ができます。

食事はフィールドトリップなどの途中で担当者と共にとることが多いです。

	Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
Week1	2-Mar	3-Mar	4-Mar	5-Mar	6-Mar	7-Mar	8-Mar
9:00-10:30	現地到着	学校案内					自由行動
10:30-12:00							
13:00-14:30							
14:30-16:00							
16:00~							
Week2	9-Mar	10-Mar	11-Mar	12-Mar	13-Mar	14-Mar	15-Mar
9:00-10:30	遠足					遠足	自由行動
10:30-12:00							
13:00-14:30							
14:30-16:00							
16:00~							
Week3	16-Mar						
9:00-10:30	日本到着						
10:30-12:00							
13:00-14:30							
14:30-16:00							
16:00~							

	法律の授業
	フィールドトリップ
	その他(現地担当者主催ディナー、プレゼンテーションなど)

● Excursion

遠足は、私たちの行きたいところを聞き、担当者の方が計画を立ててくださいます。私たちの場合は、車で2,3時間ほどのところにあるビーチとプールに行きました。ビーチではバナナ・ボート、ビーチバレー、プールではラフティングなどを楽しむことができます。

参加人数が少ないことと安全性から、休日は基本的に研修者が一緒に行動するようにとデ・ラ・サール大学側から言われているので、遠足も全員参加となります。

研修参加者である程度話し合い、どこに行きたいか決めておくと思います。この遠足では様々な予約は担当者が行ってくれ、移動手段も大学の車で行くので、安心してどこにでもいくことができます。



● Field Trip

デ・ラ・サール大学は、フィリピンの首都であるマニラの中心部にあるため、フィールドトリップ先のほとんどは、車で30分から1時間程度で着ける場所にあります。しかし、渋滞や整地などの道路状況が日本と比べてあまりよくはない上、早朝から出かけることも多いので、乗り物に弱い人は注意が必要です。



フィリピン最高裁判所 大法廷

フィールドトリップ先の多くは、裁判所や国会などの官公庁です。これらの場所では、カジュアル程度ではありますがドレス・コードが必須となっています。男性は襟付きシャツ、長ズボン、女性は肩を出さないもの、下は膝丈より長いもの、靴はどちらもサンダルでなければ問題はありません。写真撮影が禁止の場所もありありません。案内して下さるガイドさんもフレンドリーな方が多く、どの方も質問をすると喜んで答えてくれます。

これら以外にも、マニラ市近郊にある、フィリピンの歴史に関係した場所にも訪れます。



世界遺産でもあり、スペイン統治時代におけるカトリック宣教の名残であるサン・オーガスティン教会や、フィリピン独立運動の英雄の記念館などがあるホセ・リサール公園です。見学では、デ・ラ・サール大学の学生も一緒に回ってくれるので、その都度展示品の説明、解説などもしてくれました。

フィリピンの法と社会への理解を深めるため、大きな社会問題となっている、スラム街も歩きました。このスラム街は大学のそばにありますが、警備員も近くにいるので安全です。

● Presentation

この研修の中で一番重要ともいえるのが、このプレゼンテーションです。講義やフィールドトリップで学んだフィリピン法と文化について、2つのグループに分かれてまとめ、それぞれ発表をしました。パネラーとして、デ・ラ・サール大学法学部で実際講義をおこ



なっている講師の方々がいらっしゃり、法学部に通う学生も見学に来ます。場所が図書館の入り口付近であるため一般の学生も多く、かなり緊張しますが、参加者同士で協力をするので無事終了することができました。

5. The Life of Manila

● 食事

フィリピンで最初に連れて行ってもらったレストランで、フィリピンの一番代表的な料理に出会いました。この料理は、レチョンとって子豚の内臓を取り除き、中に香草をつめて丸焼きにしたものです。皮はパリッと、中はジューシーで旨みあふれるとてもおいしい料理です。ほかにもたくさんの伝統的な料理をいただきました。レチョンのように見た目にインパクトがある料理もありますが、ぜひチャレンジしてほしいです。



フィリピンのポピュラーなデザートといえば、ハロハロです。街中にハロハロの広告があり、最初は驚きました。日本で知られているハロハロとは見た目も味も違います。見た目はあざやかで、盛り付けはそのお店によって様々です。味付けはココナッツミルクがベースでかなり甘めで、甘党の方にはオススメです。



●乗り物

フィリピンの代表的な乗り物としてジプニーがあります。いわゆる乗り合いバスのようなものです。外観デザインは、運転手さんのセンスと個性に彩られています。内装は、下の写真のようにお互い向き合うような形で座席が置かれ、天井には手すりがあります。定められた区間ならどこで降りても7ペソ(約20円)ほどです。



運賃の払い方に特徴があり、後ろ側から乗客が運賃をどんどんリレーしていき運転手に渡します。また、対面で座っているため、他の乗客と交流が生まれる場面もありました。

●風景

マニラ湾から見たサンセットです。とてもきれいでした。



大学の屋上から見えた、街の中心部にある高層ビル群。

海ではしゃぐ清基くん。
楽しそう！



6. デ・ラ・サール大学の学生からのメッセージ

デ・ラ・サール大学の学生から明治大学の研修希望者の方々へのメッセージです！



Hector Mayel Macapagal

The president of the law student government

The Exchange Student Program of De La Salle University-Manila Philippines and Meiji University aims to form bond and unity between the educations of two Asian nations. The need for this program is strengthened with the near coming of the 2015 ASEAN Economic Integration. It would be highly beneficial for students of different nations to know or familiarize themselves with

the cultures of their neighbouring countries.

The first exchange program already occurred last March 2014. Students from Meiji University: Hidenori Kiyomoto, Masahiro Ogawa, Toshiyuki Ohuchi, Aya Hikami and Megumi Takagi along with students from De La Salle University – Manila, Philippines had an exchange of information on what their countries and citizens have: culture, sports, food, hobbies, education, law, government and many more. Educational tour in the Congress and Senate were also done to ensure wider perspective of the Philippine legal system. Each student's knowledge was enriched while having a pleasurable time with each other.

It is surely a fun, exciting and educational experience for students to engage themselves in the Exchange Student Program of De La Salle University- Manila and Meiji University.



Justin D.J. Sucgang

The president of a student organization

The Philippines has the oldest formal legal education system in Asia. As early as 1734, the Spanish colonizers established the Faculty of Civil Law in the University of Santo Tomas. When the Americans came, the University of the Philippines College of Law brought the American legal education system to our shores. From this moment, the then modern Socratic and case methods were introduced and have become the gold standard in Filipino law schools. In 1991, the Ateneo de Manila School of Law refined its law curriculum by adopting the Juris Doctor degree, the standard law degree conferred in the United States. The Philippines, therefore, has a unique advantage in legal education system since it has the best of both worlds – the civil law and Roman tradition from Spain and the common law and English tradition from the United States of America.

This enormous gap is what De La Salle University College of Law (DLSU Law) wants to bridge as the youngest law school in the Philippines. We also take pride in our multidisciplinary and global perspective in legal education. Thus, DLSU Law is the only Filipino law school with institutionalized international linkages as part of our internationalization thrusts. In 2014, we started the Introduction to Philippine Law and Legal Profession program for students of Meiji University Students.

The Program also incorporate activities that will allow Japanese law students to better understand the Filipino culture considering our shared historical and cultural heritage with the Japanese people. Thus, we have field trips to different natural and man-made wonders in the Philippines. All of these are integrated in the curriculum to ensure that law students who enroll in this Program will have a more holistic education.

7. Lectures

授業は、語学の授業はなく、法律授業のみとなっています。憲法、民法、Legal Professionなどを中心に1授業90分で行われます。講師の方はデ・ラ・サール大学で教鞭をとられている弁護士の方が多いですが、法律事務所に勤めていらっしゃる現役の弁護士の方々に教わることもあります。デ・ラ・サール大学法学部では講義は基本的に弁護士資格をもつ方によって行われています。そのため、敬称は Mr.や Professor ではなく、Attorney とするのが一般的です。

授業の形式は、パワーポイントを使いながら、もしくは口頭で法律の基礎を学びます。専門的な単語は避けてくださいますが、完全に英語のみでの授業になるので、理解するにはかなりの努力が必要となります。どの講師の方もフィリピンと日本の法律の違いに関心が高く、こちらに質問してくることも多いので、日本の法律知識も必要となります。また、質問があるかどうかを聞かれることが多く、質問がなければ不真面目もしくは興味がないととられてしまうので、積極的に発言することも重要です。



大学構内にて民法の講義



法律事務所にて憲法の授業

授業は大学構内だけでなく、法律事務所や貿易産業省で行われることもありました。施設内を見学した後、その場所に関係した法律授業を受けます。

講師の方々には、テレビ番組によく出演している方や、国会答弁に専門家としてたった経験もある方もおり、人気かつ多忙な方が多いです。

講義形式のものだけでなく、大学が主催した外部講師の講演を聞くこともありました。

● 授業内容

- ・ 憲法
- ・ 民法
- ・ 刑法
- ・ 労働者法
- ・ Legal Profession
- ・ IP 法など



デ・ラ・サール大学で研究中の九州大学講師による講演

8. 参加者からのメッセージ

フィリピンで行われるデ・ラ・サール大学春期法学研修は、明治大学が実施している他の海外への法学研修よりも過酷であることは間違いないです。精神的にも体力的にも追い込まれる環境で2週間を過ごします。しかしそんな環境だからこそ今でも鮮明に思い出が蘇ってきます。

リーダーである私，小川雅大が，メンバーを代表して感想を記します。

今回のデ・ラ・サール大学春期法学研修は，初めての実施で参加者は5人でした。私たちは誰一人としてフィリピンへ行った経験がなかったので，とても不安で，右も左もわからぬまま未知の土地に降り立ちました。まず驚いたことは，日本の生活水準とはかけ離れた生活が待っていたということです。ホテルの男子3人部屋にはベッドが2つしかなく，ドライヤーや電気ポットなどもありません。ホテルのWi-Fiも入ったり入らなかったりで，とても苦労しました。首都と言えば，日本の東京の先進なイメージがありますが，フィリピンの首都マニラは治安が悪くスラム街などもたくさんあり，衝撃的な現実を突きつけられました。

しかし，フィリピンの人々は，明るく陽気で人懐こい人が多かったです。大学の関係者の方々は日本から来た私たちをととても丁寧に扱ってくれました。また，フィリピンでは来賓をたくさんの食事でもてなすとのことで，1日6食の生活が続き体重が増えました。でも不思議なもので最初は口に合わなかったフィリピン料理が最後にはとても美味しく感じました。

学業面では法律の分野で活躍している方々の授業を受け，フィールドトリップでは国会，裁判所，法律事務所などへ行き，たくさんの貴重な体験をすることができました。

デ・ラ・サール大学はフィリピンでも有数の名門大学で，セキュリティも万全で勉強するための施設が整っています。また，デ・ラ・サール大学の学生は学ぶことが大好きで，みんな朝早く登校して勉強をしていました。日本の学生も見習うべきところがたくさんありました。

私たちと行動をともにしてくれたデ・ラ・サールの学生はみな，デ・ラ・サール大学の中でも成績トップクラスでみな学生と先生などの仕事を兼ねている人でした。みんな私たちよりも年上でしたが，友達のように毎日接してくれて勉強や英語を教えてくれました。それ以外にも食事に連れて行ってくれたり，週末一緒にリゾート地へ行ったりと生活面でもたくさんのサポートをしてくれたのでとても助かりました。

このように，デ・ラ・サール大学法学研修は辛いところはとことん辛いですが，楽しいところはその何倍も楽しめます。参加人数も5人ということで現地の方との絆も参加者同士の絆もより確かなものを築けました。今でもデ・ラ・サール大学の学生と連絡をとり日本で会う約束もしました。

フィリピンでの生活はサバイバルです。でもその裏にはたくさんの驚きや異文化の発見があります。そして妥協できない生活をする中で自分を見つめ直すチャンスにもなると思います。この研修での達成感と満足感は計り知れないものがあります。私が保証します。最後まで読んでいただきありがとうございます。是非，デ・ラ・サール大学法学研修に参加してみてください。

9. 現地の生活に必要な持ちもの

フィリピンでの生活は日本とは大きく違い様々な面で不便なことが多いです。私たちが体験し必要だと思ったものを紹介します。参考にしてください。

☆持ち物

○パスポート、現金(日本円で5万円ほどを換金すれば2週間楽しく生活できます)、航空券、海外旅行保険証、国際学生証、旅程表、研修校の資料、携帯電話、洗面用具、化粧品、筆記用具、マスク

これらは手荷物に入れて準備しておくといろいろ重宝します。

○衣類、タオル、サンダル、水着、通学用バッグ、常備薬、雨具、文法書、参考書
これらはスーツケースに入れて準備しましょう。

これらは必要最低限の持ち物です。これらに加えて必要なものがたくさんあります！

☆衣類

現地は高温多湿でとても暑いですが、建物の中などはエアコンがかかっている寒く感じるが多かったため、薄手のカーディガンやパーカなどを持っていくことをおすすめします。現地ではお金持ちのような派手な格好をしていると襲われる可能性がありますので、T-シャツ、短パンで過ごすことをおすすめします。

また、フィリピンでは最高裁や国会に行くときなどフォーマルな格好として襟のついたシャツやポロシャツを着ますので、そのような衣類の準備もしておくべきです。

☆食料

フィリピンの食べ物は味が濃くオイリーなものが多いです。もちろん日本の味が恋しくなります。そこで味噌汁、日本茶、自分の好きなお菓子などを持っていくとメンタルを保って2週間生き延びることができます。

☆生活用品

生活用品は基本的に大きなスーパーで調達することができます。日本のホテルと違い十分なシャンプーや洗顔料などが準備されていないので現地でそれらを買うことができます。

☆ネット環境

フィリピンではネット環境はありますが日本に比べ通信速度が遅くストレスが溜まります。ポケット Wi-Fi を持っていくと友達と連絡するときや課題を進めるときの効率がよくなります。

☆常備薬

日本とのギャップに精神的に参ってなのか、たくさんの食べ物をご馳走してもらいそれを無理に食べたからなのか、毎日腹痛になる人が多かったため、胃腸薬や腹痛止めが必要です。移動の車の揺れが激しいので、酔い止めも必須です。

10. 2013年度研修概要

○期間

2014年3月2日(日)～2014年3月16日(日) 15日間

○参加人数

5人

○研修校

De La Salle University (フィリピン・マニラ) (<http://www.dlsu.edu.ph/>)

○滞在先

Taft Tower Hotel (朝食付き) (<http://www.tafttowerhotel.net/>)

○研修費用

¥277,000 (現地での食事代や交通費などは別)

○単位認定

現地での最終試験，法学部での事前・事後学習での参加・理解度を総合的に判断し，翌年度の春学期集中法学部科目として成績評価を行い2単位付与。

● 編集後記

・小川 雅大 (3年)

僕は「参加者からのメッセージ」，「現地の生活に必要な持ちもの」，「研修概要」を担当しましたが，書いているうちにフィリピンでの思い出が鮮明に蘇ってきて，またフィリピンに行きたいと思いました。この冊子で自分たちの経験を次回の参加者に活かしてもらいたいです。ぜひ，たくさんの人たちにこの研修の楽しさを味わってほしいです。

・大内 敏幸 (3年)

報告書をまとめることで楽しい出来事を思い出すことができた。フィリピンで出会った人たちにまた会いに行きたい。

・高木 めぐみ (2年)

冊子を作成するにあたり，2週間の間に書いた日記や写真を見返しているともう一度フィリピンに行きたいと思いました。

・樋上 彩 (2年)

表紙，もくじ，Introduction to De La Salle Spring Law Courseを担当しました。また，各個人が担当したページを集めて1冊にまとめました。大変でしたが，研修を思い出しながらの作業だったので楽しかったです。何度も読み返して分かりやすい文章になるように心がけました。

・清基 英則 (2年)

僕はデ・ラ・サールの学生のメッセージを一任されていたので彼らとのコミュニケーションが大変でした。しかし，日本に帰っても彼らと通じあえるということがわかり大きな発見だったと思います。



デ・ラ・サール大学春期法学研修 Web ページ

<http://www.meiji.ac.jp/hogaku/dlsu/>

発行：明治大学法学部